

# 山と博物館

第23巻 第7号

1978年7月25日

大町山岳博物館



白馬大雪渓

撮影 平瀬貴志

## 木崎湖周辺の古気候を思う

北アルプス連峰の真下にある大町地方には高原特有の草木が多い。これらの植物群からは、毎日無数の花粉や胞子が飛散して、大地に落下しているが、この花粉や胞子が何千年もその形のままで堆積しているということである。それは驚くことといわなければならぬ。そこで日頃、気にかけていたことを思い出し実行に移して見ることにした。それは縄文時代の古気候を花粉分析によって知ることが出来たならばということであった。早速これに適應した資料として、市内の木崎湖に程近いコボレ沢遺跡から、縄文早期初頭の土器と同じ層に堆積していた土を採取して、ある研究所に送り、花粉や胞子などの分析を依頼したのである。コボレ沢遺跡は、縄文早期から始まり弥生中期の土器まで発見されている複合遺跡であり、その中で一番深い縄文早期の層は八〇センチの深さに堆積していた。先日のこと、依頼した資料の分析報告が届いたので、ある期待を込めて開いたのであるが、期待以上の結果が列記されていて、改めてこうした科学への期待と、地球の歴史というものの真実の姿を直視することの尊さを痛感したのである。

報告には次の如く書かれていた。  
 針葉樹―モミ・スギ・イチイ、広葉樹―サワグルミ・ハンノキ・ハシバミ・クリ・シイ・アカガシ・コナラ・ニレ・ケヤキ・シラキ・カエデ・トチノキ・モチノキ、草本類―カラマツソウ・セリ・キク・ヨモギ・タンポポ・イネ科・スゲ科、羊歯類胞子―ヒカゲノカズラ科・ゼンマイ科である。さて、シイ・アカガシが発見されたことは特記すべきで、この時代の暖かさを示し、今の関東南部のような環境下にあったかと思うものである。

(原田 暁)

# 切久保諏訪社の祭と薙鎌・七道の面

## 北安曇郡白馬村北城区切久保

### 青木 治

#### 一、例祭日

今は新暦の九月二十七日であるが、昔は旧七月七日であったので、七道(七当)祭ともいった。その中に諏訪の三射山祭と同日の七月二十七日となり、養蚕飼育の関係で八月二十七日(新九月二十七日)とした。

#### 二、祭列の出発

祭の当日の正午神職・氏子総代・若衆仲間子供仲間の祭関係者と村人や参観人等が塩島部落の大屋家塩島氏宅に集まり、準備を整え出発式を行い、祭列を整え轎を先頭に、火繩銃(今は村田銃)の号砲で出発する。

#### 出発順序の隊列

轎↓花↓楽隊(子供仲間が明治の終り頃から楽隊を組織する、それ以前は笛隊)↓神職↓唐櫃↓氏子総代等の役員↓参観人

隊列の中心は唐櫃である、その内容品は神に供える御神酒・洗米と尾花(す、き)である。この祭を別に尾花祭というものもある。



切久保諏訪社 塩島の大屋家塩島氏宅で  
せい揃いした祭列 昭31.7.27

祭列は途中新田の④横沢氏宅に少憩する習しである。後神社に向い、到着後は拜殿に入る。

#### 三、お風流とその資料

宮司を中心とした大勢の神職、氏子総代祭関係の役員・若衆・子供仲間等の人々の参列のもとに神前の儀が済むとお風流に移る。七道の面の装束(神社の宝物の三箇の天狗と鬼の面をつける)者等が、薙鎌・神・短剣を持って、宮司の先導で神社の入口の「第(頭)の木」まで高い石段を、往復する。

- 一人目 太鼓(七道の面者) 係員
- 二人目 かね(七道の面者) 係員
- 三人目 御幣(七道の面者) 係員
- 四人目 薙鎌 神職
- 五人目 薙鎌 神職
- 六人目 薙鎌 神職
- 七人目 薙鎌 神職
- 八人目 薙鎌 神職
- 九人目 薙鎌 神職
- 十人目 短剣 塩島氏(大屋家)
- 十一人目 短剣 横沢氏(新田の④)
- 十二人目 目面なき故無手 係員
- 十三人目 目面なき故無手 係員
- 十四人目 目面なき故無手 係員
- 十五人目 目面なき故無手 係員

#### ○資料(1)

覚 (開留書より北城区嶺村文書)  
一 当村諏訪大明神祭礼七月二十七日ニ御座候所右午之刻ニ杜人七道之式太鼓手調子モ鬼面をかむり三人其外上下を差七人罷出申候、一尾本祭り申章之穂を持、小(子)供罷出舞踊候、  
一 祭日轎十六本



切久保諏訪社 唐櫃(内容品 御神酒・洗米・尾花) 昭31.7.27

踊るのである。

尾花踊の歌

(一)朝日さす眺め見渡す我が里や  
す、き花咲く尾花山  
黄金の波打つ秋の日や

あ、な尊しや大神は  
尾花を捧げておろがみぬ

(二)刈って乾す穂芒の我が里や  
古きためしの見て振りを  
尾花祭りのその様を  
あ、な尊しや大神に  
捧げて御幸を仰ぐらん

○資料(2)(北城区嶺村文書)  
乍レ恐奉ニ申上一口上之覚

外に寄進職者格別 但し作花の出し  
〔為御名代と御鎖両村より式筋、但し村役人上下並頭立不残賢固仕罷越候、右通社ニ両村同日之祭礼仕来り書上申候、所相違無二御座一候、以上〕

#### 大町組

塩島村与頭 忠 治

庄屋 勤左衛門

全 忠 八

#### 大町組

新田村与頭 喜 惣 次

庄屋 七郎左衛門

天保十三寅年(一八四二)

九月



切久保諏訪社 お風流(高い神社の前の石段を下りて帰る) 昭31.7.27

一 当村諏訪明神御祭礼之儀ニ付、先達而以願書候処、右尾本祭之儀誤合候而出記差上候様被仰下付、古来モ仕来り申候記奉差上候。

一 住古モ尾花祭ニ出申候子供之儀者、月之数字申、拾式人ニ相定り尾本ヲ以罷出申候、其節差用物は麻ニ所々ちち物を差、太鼓鼓手拍子

右鳴物ニ拍子斗舞仕

西沢九之丞 殿  
栗林七郎右衛門殿  
四、尾花踊とその資料

十人の稚児による尾花踊の奉納は昔からである。稚児は昔は男女二組であったが、今は十人の一組の女子のみで行う。金紙の脚絆に赤い襦袢の縫下げに纏掛けて、手に手に尾花を持ち、太夫の音頭で尾花踊の歌に合せて、

儀は青箸喰初メ三左山祭ト申唱 古来チ仕  
来リ申候所相違無ニ御座一候、右之詠合ニ  
御座候得ば何卒仕度奉レ存候間 此段御許  
容被ニ成下置一様 宜敷被ニ仰上一可被下  
候 以上

大町組  
塩島村百姓代 要左衛門  
組頭 新平  
庄屋 勘左衛門

大町組  
塩島新田村百姓代 三右衛門  
与頭 案右衛門  
庄屋 横沢左右衛門

寛政八年(一七九六)

辰七月

栗林七郎兵衛 殿  
浅野治郎右衛門 殿

○資料(3)(北城嶺村文書)

一切久保諏訪神社口碑  
一切久保諏訪明神祭之儀、其昔も尾花七導  
年々七月二十七日山神後花見花見沢の間  
に菊取神前に供へ祭礼を仕り尚又神殿替替  
之節は右山に萱菊取修履往来と記  
文政七甲申年(一八二四)

六月

○資料(4)(北城区嶺村文書留書)

一切久保村諏訪大明神、白鳳元年<sup>壬午</sup>宮立、  
神領六石 川内五反 田除地なり、  
尾花踊をする時には、前述の如く尾花(す  
き)の穂を手持って踊っている。資料(2)  
の寛政八年(一七九六)九月のものでも、  
踊をする子供の数は、月の数の十二人で、  
本を持って罷り出て申し候。云々といつて  
あり、また祭礼の折の唐櫃の主たる内容は、  
これまた尾花である。

文政七年(一八二四)の資料(3)によると、  
これ等の尾花は「年々七月二十七日山神後  
花見花見沢の間から菊取って神前に供へて祭  
をする」といっている。神殿の葺替の宜は、  
この山から萱を刈って修履する仕きたりとな



切久保諏訪社 尾花踊 昭31.7.27

ついているといっている。尾花祭と称する所以  
もこにある。

五、薙鎌と民話七道の面

前述の如くお風流の折、四人目から九人目  
の神職により五尺(一五〇センチ)位の柄の付い  
た薙鎌を捧持して、お風流に出る。

薙鎌は諏訪明神の表象であつて、神社によ  
つては神体として奉安している向もあるし、  
諏訪明神の憑代とし神聖視している。諏訪大  
社の祭礼では、剣・鉾・鎌・薙鎌を祭の供奉  
品として、祭器に用いている。

こ、切久保の諏訪社でも、この薙鎌を祭具  
として、前述の如く捧持する。

この薙鎌は諏訪大社の  
七年に一度の御柱祭の翌  
年諏訪大社から、希望の  
諏訪神社に下される習慣  
である。

小谷郷庄のこの地方の  
諏訪神社の殆んどのお宮  
では、七年に一度づつ、薙  
鎌の受領に、氏子総代と  
宮司とで出掛けている。  
切久保諏訪社の薙鎌も同  
様である。

この神社には八丁の薙  
鎌がある



現在残っている三箇の七道の面 昭31.7.27

- (イ) 長さ三五cm、巾上部五  
・五cmのもの、一丁  
頭部の嘴は開いており、  
上嘴は四cm、下嘴は五  
cm、眼あり、鋸歯に発  
達する背面の線九本、  
江戸時代のもの、無名  
木柄に打込である。
- (ロ) 長さ一八cm、巾上部七  
cm、下部三cmもの、一  
丁
- 無名、眼あり、嘴を開

- (ハ) 明治、大正の頃と思うもの、三丁
- (ニ) 昭和に入つたもの、三丁

小谷村戸土の境の宮諏訪社と戸土の奥仲又  
の小倉明神の神木に、諏訪大社の御柱祭の前  
年の秋に、下社の大祝が薙鎌を捧持して、来  
て、薙鎌を打込む神事が七年に一度づつ、前  
記の二神社で交互に行つて来ている。最近で  
は昭和四十八年九月十日に小倉明神で行なは  
れている。昔は、この神事の際には、諏訪の  
大祝(今は諏訪大社宮司)は途中二、三泊し  
て来ているが、小谷の総社大宮諏訪神社に入  
る前の一泊は、塩島郷切久保の諏訪社の、神  
職宅で泊ることになっていた。その時捧持の

薙鎌は神主宅には持たず、必ず神社の入口  
の神木である、第(頭)の木の根元に奉安し、  
次の日は千国道を下つて、姫川を渡つて、土  
谷村に入り、昼食を取る習慣であつた。  
斯くこの諏訪神社は小谷に入る関門の場  
所にも位置しており昔からの諏訪大社との関  
係で多くさんの薙鎌がある。

七道の面については次の話がある。

この村のある家で嫁を取り、名をおかると  
いった。はじめは一家はむつまじかつた。そ  
のうち嫁と姑は些細なことで角突きあうよう  
になり、近隣の話題となつた。ある晩おかる  
は日ごろのうつぶんを晴らそうとし、お宮か  
ら面を持ち出し、かぶつて姑の寝室の障子の  
破れ目から声かけた。「お前は嫁をいじめる  
から今夜は俺がうらみを晴らしてやるぞ」と  
おどした。見ると障子の穴に鬼がいる。姑は  
そのまゝ、氣絶した。計画が図に當つて喜んだ  
嫁は、宮に帰る面をとうとうとしたがとれない。  
そのうち夜が白んできたので、思案にあま  
たおかるは桶川の岩窟に身をかくした。この  
穴は松川の上流の倉下まで抜けているという。  
家人も夜中に目をさまし、氣絶していた姑  
を蘇生させたが、おかるの姿はない。それで  
来面が一個不足した。一説には鬼面のおかる  
は、白馬連峯の一つ杓子岳に登つたので、七  
日の祭日には不足の面を補うため下つて来る。  
その時は三粒でも悲しの雨が降るといふ。

本来は祭の際のお風流には、七人の面者が  
参加したいといわれている。今は前述の如く  
面者が三人、面のない係員が四人無手で参加  
している。面は最初は七ツあつたが、一ツは  
おかるにより無くなつたといふ。その後三ツ  
紛失し、今は三箇社宝となつていふという。

(北安曇編纂委員、穂高町郷土資料館長)

# 大町山岳博物館「友の会」

## 責任者

博物館「友の会」  
設立準備委員長 山本 携 拳

### 設立の趣旨

大町市は北アルプスの麓にあり、自然に恵まれていることはご存知のとおりです。

私たちは日頃その中で生活しながら、自然の美しさ、人との関係を日々の多忙さにまぎれ見過してはいませんか。

自然の中にすみながら、自然や文化についての知識の乏しさが、味気ない生活にしているのではないのでしょうか。

こんど有志が集まり、山岳博物館を有効に利用しつつ、仲介者として自然や風俗、習慣などを体験的に楽しみながら学び、自分たちの「もの」にしていきなさいと、山岳博物館「友の会」をつくりました。

お年寄から子供たちまで、より幅広くの人々が集い、自分たちの郷土の再発見を、失なわれがちなスキシップ的なコミュニケーションを持ちたいと思います。

そして、その中から小さな幸福感と充実感を多くの会員と共に見つけたいと思うのです。

その連りを博物館というものを通じて、親から子へ、子からその子へと受け継いで行けるような会にしたいと思うのです。

### 「友の会」入会のおすすめ

大町山岳博物館「友の会」は、自然や文化に関心を持つ人たちの集まりで、会員の知識の向上をはかると共に、山岳博物館の種々の

事業に協力することを目的とします。

友の会は次のようなことを行います。

◎自然観察会を行います。

◎例会、講演会を行います。

◎友の会の「会報」を発行します。

◎次のような特典があります。

◎博物館へ無料で入館することができま

す。

◎一般およびファミリー、賛助会員は「山と博物館」、友の会「会報」が配布

されます。

◎学生会員には、友の会「会報」が配布

されます。

◎博物館に支障がない限り施設、資料が

利用できます。

◎年間を通じて傷害保険に加入します。

◎友の会会員証とバッジが配られます。

◎年会費は次のようです。

◎正会員：個人一般会員：五〇〇〇円

学生会員：小・中・高：二〇〇〇円

ファミリー会員（親子・家族）六〇〇〇円

賛助会員：個人および団体 一口一〇〇〇円以上

◎入会金：入会時に一人五〇〇円

※切八月十日

お知らせ

\*学生総会（小・中・高校生）

◎とき 五十三年八月十二日（土）午

後一時より三時三〇分まで（

受付は十二時三〇分より）

◎ところ 大町市公民館 講堂

◎お話 世界の虫 アルプスの虫（仮

題）二時より三時三〇分

堀 勝彦先生

珍しい世界の昆虫や、アルプスの虫につ

て、スライドを使って、その生活の不思議さ

を訪ねます。

\*一般総会（一般・ファミリー）

◎とき 五十三年八月十九日（土）午

後六時三〇分より九時三〇分

まで（受付は午後六時より）

◎ところ 大町市公民館 講堂

◎講演 安曇平の自然と文化（仮題）

八時より九時三〇分

一 志 茂 樹先生

安曇平の文化の成り立と、その自然とのかか

わりあい詳しく解説し、今後の問題点につ

いて、どのようにとりくむ必要があるかを探

る。

※一般総会の一志茂樹先生の講演、学生総会

の堀勝彦先生の講演には会員外の多くの方

々のご参加を歓迎いたします。

※学生総会には、保護者の方々のご参加を歡

迎いたします。

### 申 込 先

◎大町山岳博物館

TEL 二一〇二二一

◎大町市公民館（相沢）

TEL 大町市東 町

◎大町市役所 市民課受付

TEL 二一〇三五二

◎大町市役所 教育委員会事務局内（木村）

TEL 二一〇四二〇

TEL 二一〇四二〇

TEL 二一〇四二〇

TEL 二一〇四二〇

◎大町市観光協会（田中）

TEL 大町市仁科町

TEL 二一〇一九〇

◎大町市児童館（島田）

TEL 二一〇七四一

◎光画堂（山本）

TEL 大町市八日町

TEL 二一〇八七一

◎松川村地区

◎松川村公民館（武田武）

TEL 八坂村切久保

◎仁科利夫

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎白馬村地区

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎長沢 武

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎白馬村神城

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町山岳博物館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

◎大町市公民館

TEL 〇二六二二一三一九二六二

## 博物館だより

カモシカ扇へ

6月30日二頭のカモシカが扇沢カモシカ園に移され10月末まで飼育展示される予定です。

カモシカ出生

6月26日、付属放養園で飼育中のカモシカ「沢子」が子供をうみました。沢子にとっては第3番目の赤ちゃんです。

山と博物館 第23巻 第7号

発行所 長野県大町市TEL〇二二一

印刷所 大町市 依町

定価 年額 八〇〇円（送料共）（切手不可）

郵便振替口座番号（長野一三、二九三）

大町市 依町 大糸タイムス印刷部